



加工用ほうれんそうの露地栽培技術

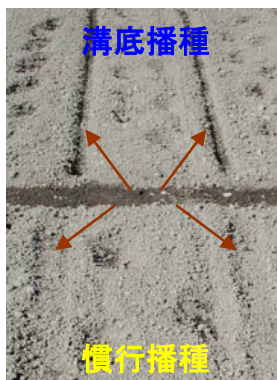
○加工用ほうれんそうとは？

加工用と青果用ほうれんそうの比較

	加工用	青果用
主な栽培場所	露地	雨よけハウス
生育日数	45～60日	25～40日
収穫時の草丈	35～45cm	22～30cm



➡ 収穫したほうれんそうは、加工工場で洗浄後、ブランチング(軽い湯通し加工)して冷凍され、学校給食や外食産業向け等に出荷されます。



溝底播種の土壤水分保持効果

※→の所に播種してあります

○問題点について試験を実施しました。

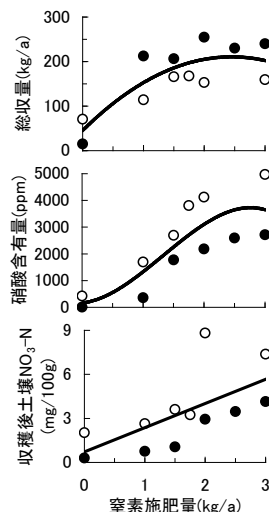
◆『抽だいしづらい』『収量が多い』『発芽が良い』『収穫しやすい』を重視して品種を比較

◆青果用に比べて収量が多いため、新たに適正な施肥量を検討

→収量、硝酸含有量、土壌残存窒素等を考慮して窒素施肥量を1.75kg/aに設定。

◆露地栽培では発芽が不安定なため、溝底播種を試験

→水持ちが良く、土壌が乾燥した条件で発芽が良くなることを確認。



●: H17.5.27播種、○: H19.5.24播種

窒素施肥量と収量等との関係

○加工用ほうれんそうの露地栽培技術体系

作型	播種期: 5月上旬～6月上旬 — 収穫期: 6月下旬～7月中旬
重要項目	発芽、抽だい、収量
品種	プロセス27
施肥量	N 1.75、P ₂ O ₅ 1.5、K ₂ O 1.75 kg/a
栽植密度	畦間54～60cm × 株間7cm
播種方法	シーダーテープ播種 播種後に土壌乾燥が見込まれ発芽に懸念がある場合は、発芽向上のため土壌水分保持効果が高い溝底播種を行う。
播種量	シーダーテープ 167～185m/a (2381～2646粒/a)
生育日数	45～60日
病虫害防除	病虫害の発生に応じて適宜行う
収穫時の草丈	35～45cm
目標収量	200kg/a

注) 溝底播種は、播種機に取り付ける円盤状の専用器具により深さ5cm程度の溝を掘り、その底部に播種する方法。(夏どりほうれんそうの溝底播種技術、平成16年 普及推進事項)

注意！
溝底播種は強い鎮圧がかかりやすく、土壌がしまり発芽に悪影響を及ぼすことがあるため、鎮圧程度に注意する。

上川農業試験場 研究部 畑作園芸科

住所: 上川郡比布町南1線5号、電話番号: 0166-85-2200

e-mail: seika@agri.pref.hokkaido.jp